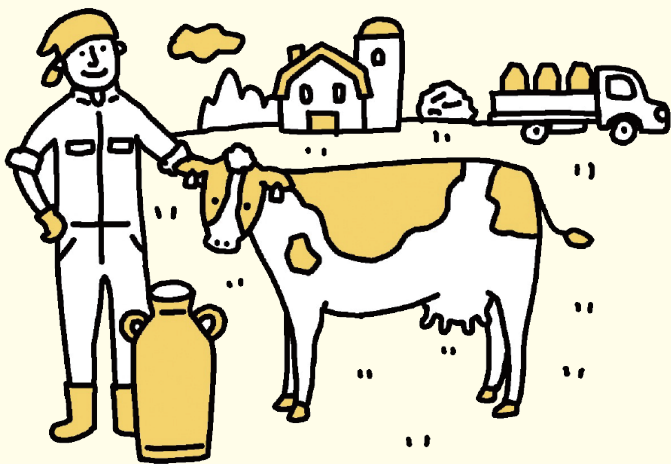


酪農乳業関係者の  
皆さまへ大切なお願い

全国一人ひとりの  
力が必要です。

# 日本の酪農乳業の成長に向けて

～コロナ禍を乗り切るために～



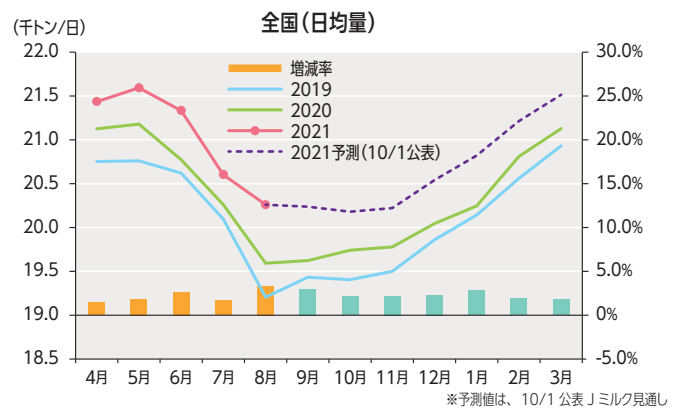
新型コロナウイルスの影響で、牛乳乳製品の需要が回復しない状況が続いています。このままでは学校給食牛乳の供給が休止する年末年始や年度末に、乳製品工場に生乳が例年より集中することで許容量を超え、処理しきれない可能性があります。万が一生乳の処理ができなかった場合、日本の酪農乳業界は甚大なるダメージを受け、今後の成長に大きな足かせとなる恐れがあります。

コロナ禍以前には高まる生乳需要に応えるため、全国の酪農乳業関係者による生乳生産基盤回復のための様々な取り組みがなされてきました。その成果が実を結び、2019年度から全国の生乳生産量は増加に転じています。

これまでの業界の努力を無駄にすることなく未来につなぎ、日本の酪農乳業の礎を守るために、ミルクサプライチェーンに係わる一人ひとりが「自分にできること」を考え、行動することが求められています。

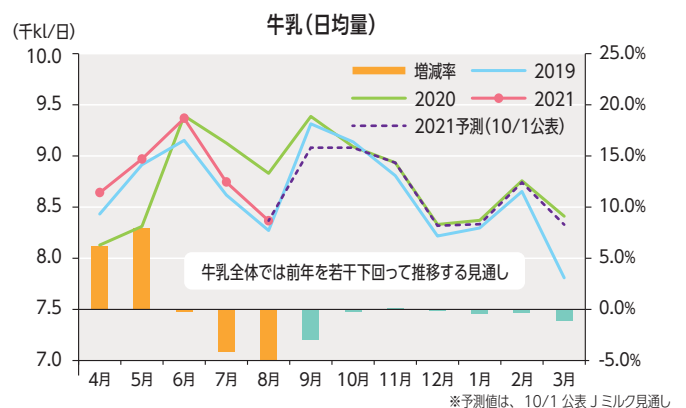
## 生乳生産の動向

今年度の生乳生産は好調に推移しており、一般社団法人Jミルクが10月1日に公表した「2021年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと当面の課題について」（以下「10/1Jミルク需給見通し」）では、全国において前年比102%台で推移するものと見込んでいます。



## 牛乳の消費動向

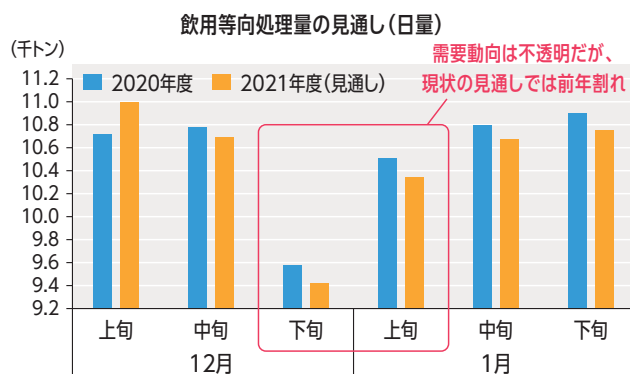
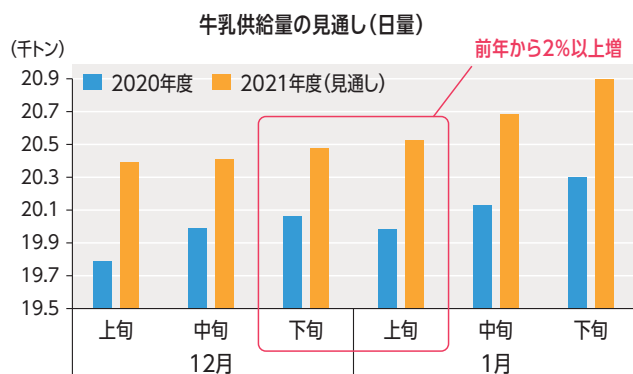
10月1日以降「緊急事態宣言」等の制限措置が解除され、コロナ禍の影響を大きく受けて消費が落ち込んでいる業務用需要の一定程度の回復が期待されるのですが、インバウンド需要の喪失は継続した状況です。また家庭内需要についても、昨年のような巣ごもり需要は見られず、低調に推移しています。



## 年末年始における生乳供給量・飲用等向処理量の見通し

年末年始については牛乳の販売がそもそも低調な時期であることに加え、一部量販店における正月三が日の休業や学校給食の休止が重なるタイミングです。特に今年は生乳需給が大幅に緩和し、**処理不可能乳が発生する恐れ**が例年以上に高まっています。

また新型コロナウイルスの感染再拡大によって第6波が到来し、再度休業要請等が発令されれば、業務用需要を中心にさらに厳しい見通しとなり、その可能性は一層強まる恐れがあります。

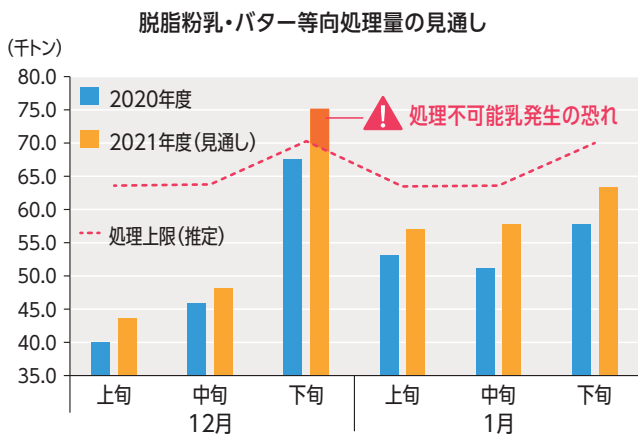


※10/1Jミルク需給見通しからの推計値

## 年末年始における脱脂粉乳・バター等向処理量の見通し

10/1Jミルク需給見通しから試算すると、年末年始に全国の乳製品工場を最大限稼働させたとしても、**全国で約5千tの処理不可能乳の発生が危惧**されています。

なお処理不可能乳の発生見込み数量については、今後の生産動向、消費動向を踏まえて引き続き精査し、関係者で情報を適宜共有していく必要があります。

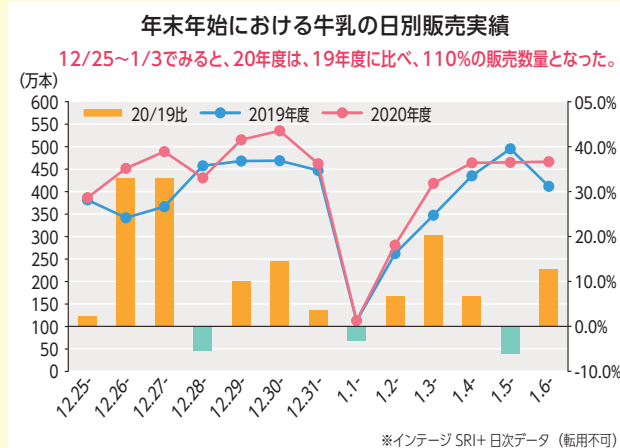


※10/1Jミルク需給見通しからの推計値

### 参考 2020年度の年末年始の状況について

2020年度の年末年始においても需給の大幅緩和が懸念される状況にありましたが、処理不可能乳の発生は回避できました。主に以下の要因が考えられます。

- 感染が拡大していたタイミングであり、帰省や旅行の自粛による巣ごもり需要が急増し、当初見通しを大きく上回って飲用牛乳が消費されたこと。
- 12月中旬以降の急激な寒さの影響などにより、生乳生産の伸びが全国的に鈍化したこと。
- 乳製品工場のフル稼働に備えた体制整備や製品の生乳使用率の引き上げなどについて、協力頂いたこと。



※インテージ SRI+ 日次データ (転用不可)

## 処理不可能乳を発生させてはいけない理由

処理不可能乳を発生させてはいけない理由として、主に以下が挙げられます。

- 生産者の生産意欲の減退とこれまで業界が一体となって強化してきた生乳生産基盤が損なわれ、**減産に直結**する恐れ
- 仮に減産になった場合、コロナ後の需要回復に伝えられなくなるとともに、需要期（夏季）を中心に**生乳の不足基調がさらに強まる**恐れ
- 牛乳製品価格への影響や食品廃棄と捉えられる懸念から、**業界のイメージ低下**につながる恐れ

このように万が一処理不可能乳が発生すれば、日本の酪農乳業にとって大きな逆風となります。業界一丸となった取り組みを実行することで、この厳しい難局を乗り越えることが重要です。

## 年末年始に業界が 一体となって取り組むべき内容

Jミルクは、(一社)中央酪農会議と(一社)日本乳業協会と連名で、「年末年始の処理不可能乳発生回避に向けた緊急の取り組みについて(お願い)」文書を10月20日付で会員・賛助会員に向けて発信しました。**処理不可能乳の発生を回避するという共通認識の下、ミルクサプライチェーン全体で「自分ができること」に取り組む必要**があります。

### ミルクサプライチェーン全体の取り組み

#### 業界共通の取り組み

酪農家・乳業者など関係者自らの牛乳利用拡大及び地域、家庭など周辺への働きかけ

#### 生産者における取り組み

一時的な生乳出荷抑制の実施(12月下旬～1月上旬)  
※早期(適正)乾乳や出荷予定牛の早期(繰上)販売など

#### 乳業者における取り組み

- ・製品における生乳使用率の引き上げ
- ・乳製品工場のフル稼働
- ・積極的な販促活動

#### 指定団体・乳業者が連携した取り組み

- ・各乳業工場やクーラーステーションにおける貯乳能力のフル活用

## “新型コロナ緊急対策事業”の新設

ミルクサプライチェーンの各段階で行う緊急的な取り組みを支援するため、乳業者から拠出いただいている酪農乳業産業基盤強化特別対策事業について10月20日のJミルク2021年度第5回理事会にて実施要綱を一部改正し、**Jミルク及び会員団体等が処理不可能乳の発生を回避するために行う「新型コロナ緊急対策事業」を新たに措置**しました。なお本事業は、2021年度の取り組みを対象とした緊急対策と位置付けています。

### 新型コロナ緊急対策事業について

新たに設置した「新型コロナ緊急対策事業」について、以下の内容で事業を推進していきます。

#### ①緊急酪農生産基盤堅持対策事業

生産者等が行う年末年始・年度末における緊急的かつ一時的な出荷抑制対策等を支援。なお前提として、生産基盤を棄損しない、酪農経営の悪化や乳牛へのダメージにつながらないこととする。

**対象期間：2021年12月21日～2022年1月10日**

※年度末については検討中

#### ②緊急牛乳消費促進事業

乳業者、乳業団体、生産者団体等が行う学乳休止期(不需要期)に向けて実施する牛乳等の消費促進・拡大につながる取り組みを支援。

※事業の詳細は、ホームページをご覧ください。

[詳細はこちら](#)

Jミルク 生産基盤2021

検索



# 年末年始・年度末の牛乳消費促進を！

全国で牛乳の消費促進に向けて盛り上げていきましょう！  
Jミルクでは、業界が一体となって取り組みを進めるための  
施策を準備しています。

詳細はこちら



Jミルク 大切なお願い

検索

## ① 「#1日1L」運動の推進

全国の酪農乳業関係者自らが年末年始の  
**学乳休止期（不需求期）に、通常よりも  
多く牛乳を消費**する活動です。みんなの  
取り組みをSNSで見える化し、消費拡大  
につなげましょう。

期間：2021年12月25日（土）～  
2022年1月3日（月）の『10日間』

内容：期間内に毎日1L牛乳を購入し、  
企業や個人のSNSでハッシュタグ  
「#1日1L」をつけて投稿する。



詳細はこちら

投稿例：「毎日ミルクレシピをたのしんでいます♡」  
「家族と牛乳で乾杯！」「やっぱりラッシー最高！」

Jミルク ミルクレシピ

検索



## ② 「#私のミルク鍋」 プレゼントキャンペーン

牛乳をたっぷり使った「ミルク鍋」を作り、「#私のミ  
ルク鍋」をつけて写真をSNSに投稿すると、抽選で素  
敵なミルクグッズがもらえるキャンペーン企画です。**消  
費者向けの活動でもご活用ください。**この冬は毎日牛乳  
買いに行きましょう！

期間：2021年12月～2022年2月



Jミルク #私のミルク鍋

検索

詳細は  
こちら



## ③ 学校給食がない時期は ご家庭で牛乳を

学校が休みの日は、子どもたちの  
成長に欠かせないカルシウムが不足  
しがちです。**家庭でも牛乳を飲ん  
だり、食事に取り入れたりする必要性**  
などを知っていただくためのリーフ  
レットを準備しています。学校関係  
者、教育機関などへの説明にもご活  
用ください。



詳細は  
こちら

